

**第9回北海道集落総合対策事業幌加内町（母子里地区）地域協議会
母子里地区地域づくり協議会（議事要旨）**

■開催日時

平成27年3月23日（月） 14:00～16:30

■開催場所

幌加内町母子里コミュニティセンター研修室

■出席委員等

<委員>

多田会長、橋本委員、日野委員、若山委員、小野田委員、大野委員

<アドバイザー>

旭川大学経済学部 木谷助教

旭川大学短期大学部 和島助教

<幌加内町>

総務課 宮田補佐

地域おこし協力隊 安齊隊員

<事務局(北海道)>

総合政策部地域づくり支援局地域政策課 三上課長、西田主幹、田中主査

上川総合振興局地域政策部地域政策課 堤課長

■開催概要

1 挨拶

三上課長：本日もご多忙のなか、本協議会にお集まりいただき感謝を申し上げます。さて、本協議会は、平成25年6月に1回目の会議を開催して以降、2年間にわたり、母子里地区の活性化に向けて真摯なご議論をいただいたところであるが、本日で9回目を数え、本協議会としては最後の開催となる。これまでの間、昨年度においては、旭川大学のご協力による母子里地区の全世帯を対象とした聞き取り調査をはじめ、地域の方々を交えた意見交換会の開催など、様々な機会を通じて話し合いを重ね、地域の思いが込められた「母子里地区の将来に向けて」を取りまとめられたところ。本年度においては、この中間まとめに基づき、母子里クリスタルパークへのコンテナハウスの整備や、カフェといった、住民同士のふれあいの場の設置をはじめ、旭川大学の全面的なご協力をいただきながら、山菜料理のレシピ開発や、冬の交流イベントの開催に取り組み、さらには、高齢者の方を対象とした買い物支援の取組など着実に進めてこられ、多田会長をはじめ、委員の皆様のご努力に対して、心より敬意を表する次第。また、平成25年8月には、地域おこし協力隊員として母子里に来られた、安齊さん、高橋さんのお二人におかれても、はじめての土地で精力的にご活躍されていることに、心より敬意を表するとともに、今後一層の飛躍を期待している。本協議会での取組は、道のモデル事業として、ご協力をいただく形で進めていただいたが、ここ母子里での2年間の取組は、集落対策に関して、まさに他の地域のモデルとなる先駆けの事例と

して、今後、道内各地域に幅広くご紹介させていただく考え。本協議会については、任期満了に伴い、本年度をもって、終了することとなるが、これからも、ここ母子里地区の目指す姿の実現に向けて取り組んでいただきたい。道としても、そうした地域の将来を見据えた取組に対して、引き続き協力させていただきたいと考えている。最後になるが、本日お集まりの皆様のこれまでのご苦勞に対する感謝と今後の益々のご活躍をご祈念申し上げ、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

多田会長：本日はご多忙のなかお集まりいただき心より感謝申し上げます。さて、先日の3月15日には、ここ母子里において、大きなイベントを開催したところであるが、旭川大学や北大雨龍研究林のご協力をいただきながら成功裏に終えることができた。参加者からの評価も高く、地域にとっても今後の展開を期待したいところ。本日は、道のモデル事業としては最後の会議となることから、これまでの取組の総括と今後の取組を中心に議事を進めていきたいと考えている。

それでは、早速、議事に入らせていただく。進め方としては、本協議会での取組の4つの柱である高齢者の支援、地域交流のイベント、地域資源の発掘と活用、地域コミュニティの活性化について、部会ごとに、それぞれ本年度の取組結果をご報告いただき、その後、意見交換をしていきたい。

2 議事

(1) 平成26年度の取組状況について

① 高齢者支援

多田会長：それでは、早速、議事に入らせていただく。進め方としては、本協議会での取組の4つの柱である高齢者の支援、地域交流のイベント、地域資源の発掘と活用、地域コミュニティの活性化について、部会ごとに、それぞれ本年度の取組結果を報告いただき、その後、意見交換をしていきたい。最初に、高齢者支援事業について、地域おこし協力隊の安齊隊員に報告をお願いする。

※安齊隊員より当日資料1に沿って報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今の報告について、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。私から1点、利用する方が少なかったことから、各高齢者宅に確認連絡をするようにしたとのことであるが、いつ頃から始めたのか。

安齊隊員：高齢者の無償送迎の試験運行は、1月からスタートしており、本来であれば、利用者からの連絡を受けて送迎に応じることとしていたが、利用者が少なかったことから、3月から各高齢者宅への利用の有無の確認の連絡を実施している。

② 地域交流イベント

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。地域交流イベントについて、旭川大学の**大野先生**、**木谷先生**より報告をお願いしたい。

※**大野先生**より当日資料2及び3に沿って報告

※**木谷先生**より当日資料4に沿って報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今の報告について、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。

若山委員：今回実施した地域交流イベントの「母子里と出会う旅」の収入を見た場合、地域内の住民、いわゆる身内の参加者の負担割合が多かったように思うので、今後、地域外からの参加者を増やしていくような工夫が必要であると考えます。当初、開催経費の不足が懸念されたことから、実行委員会のメンバーが参加費を多く負担しているような状況であった。結果としては、事前の準備が上手くいったので、最終的に大きな赤字を出すことなく運営上の問題は特に生じていないが、今後検討が必要であるように思う。イベント自体は、怪我などの事故もなく、参加した子どもたちも非常に喜んでいたので、大成功であったと考えているが、スタッフ間の意思疎通や作業の効率など、運営面での今後の課題は色々あったように思う。

大野委員：今回のイベントでは、色々と議論のあるところであるが、子どもから参加費は徴収していないので、若干でも参加費を徴収したほうがよかったように思う。

③ 地域資源の発掘・活用

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。地域資源の発掘・活用について、旭川大学の**和島先生**より報告をお願いしたい。

※**和島先生**より当日資料5に沿って報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今の報告について、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。私から1点、地域資源の発掘・活用ということで、北大雨龍研究林と、山菜利用に関する協定を結びたいと考えている。現在、吉田林長に対して、どういった形で進めていくのがよいか、具体的な相談をしている段階であり、吉田林長からは、山菜に限らず、もう少し幅広い内容で協定を結べればと前向きなアドバイスをいただいている。可能であれば4月下旬ころには協定を結び

たいと考えている。実際のところ、この山菜を活用した取組としては、当面はPR活動や販路開拓などが中心となり、本格的に山菜を採取するのは、来年以降になるものと思われる。山菜に関しては、採取できる時期が非常に短いことから販売可能な期間が限定される。今のところ、山菜の販売に関しては、東京方面を中心に、行者ニンニクやタケノコをメインにしたいと考えている。加工についても、同様に、行者ニンニクやタケノコの瓶詰めなどを考えていきたい。先日、地域内に整備したコンテナハウスでも販売していく予定である。

④ 地域コミュニティの活性化

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。地域コミュニティの活性化について、私のほうから報告をさせていただきます。

※和島先生より当日資料6に沿って報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今の報告について、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。

※特になし

(2) 母子里地区の将来に向けて

① 母子里地区の将来に向けて（H27. 3更新版）

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。道のモデル事業としては、本日で最後となるので、昨年3月に作成した「中間まとめ」をベースに、本協議会で取り組んだこの2年間の振り返りながら、更新版として整理していきたい。まず「母子里地区の将来に向けて」の平成27年3月更新版について、道の西田主幹より説明をお願いしたい。

※西田主幹より資料1に沿って説明

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今の報告について、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。

※特になし

② 今後の取組についての検討

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。繰り返しになるが、道のモデル事業としては、本日で最後となるが、本協議会での取組は、今後も継続していくこととなるので、最後に、これまでの取組を踏まえつつ、平成27年度以降の今後の取組などについて、この後、皆で考えてみたい。資料2として、ポイントを整理してみたので、道の西田主幹より説明をお願いしたい。

※西田主幹より資料2に沿って説明

<意見交換>

多田会長：それでは、この資料を参考に、今後どのように取り組んでいくかについて、意見交換を進めていきたい。

小野田委員：今回の協議会には、幌加内町職員としての立場を離れ、委員の一人として参加しており、そういった意味では、他の委員の方々と同じ目線で母子里を見て、今後どうしていくかを一緒に考えていきたいと思っている。これまでの間における話し合いの中で様々な課題が挙がっていたかと思うが、その全てを直ちに解決することは現実的ではないので、何点かの課題に絞り込み、着実に取組を進めていくことが必要であると考え。この2年間で一番大きかった出来事として、地域おこし協力隊2名が母子里に入り、地域の雰囲気が大きく変わったことが挙げられるかと思う。こうした若い方々が地域に住み、コミュニティの一員となって地域を支えていくことは非常に大切なことであり、現在取り組んでいる活動の継続や次につながるような取組を一番に考えていく必要があると考えている。

日野委員：地域おこし協力隊が、母子里で生活するための仕事など、今後も住み続けられるような環境を整えていく必要がある。山菜を活用したビジネスもよいが、それだけでの生活は難しいので、他の仕事も含め複合的に考えていく必要があると思う。

多田会長：地域おこし協力隊のお二人は、母子里以外の他の地域の施設や牧場などの見学や視察にも出向いており、現時点では、自分自身の今後について色々と模索している段階かと思う。母子里にきてまだ1年足らずであり、もう少し腰を据えて、じっくりと考える時間が必要かと思う。

ここで議論のポイントを少し整理したい。先ほど、西田主幹から説明のあった、資料2の今後の取組についてであるが、当面、すぐに取り組むべきものとして考えられるのは、地域資源の発掘・活用に関して、山菜の販売ルートを開拓していく必要があると考えており、コンテナハウスに関して、厨房設備や上下水道設備の整備について、町に対する要望を検討していきたい。また、本協議会は道のモデル事業としては終了するものの、今後の取組のこともあるので、組織としてこのまま継続していきたいと考えている。高齢者無償送迎に関しては、役場からの支援を受けな

がら、本年12月までは試験運行を続けていくこととしている。地域おこし協力隊の活動に関しては、可能な範囲で差し支えないので、もう少し活動範囲を広げて、地域の便利屋さんのような役割を果たしていただければと思っており、現在の隊員が、母子里に引き続き住んでいただくのが一番ではあるが、公私を問わず、地域の皆で支え合って生活していく仕組みづくりにつながるような活動を期待したいところ。地域交流イベントに関しては、他の取組との兼ね合いもあるが、大きなイベントについては、スタッフや予算の確保など厳しい状況にあるので、当面は休止する方向で考えていきたい。ただ、コンテナハウスの環境が整えば、カフェの営業や物販のPRにもつながるような、比較的規模の小さいイベントを開催してはどうかと考えている。以上の点を踏まえ、本協議会における当面の取組としては、規模を縮小し、地域資源の発掘・活用と、地域コミュニティの活性化の2点に集約する形で進めたいと考えている。

日野委員：今後の取組については特段の問題はないように思うが、色々と事業を進めるとなると実施主体をどうするかといったことを考えていく必要がある。この辺のところはどのように考えているのか。

多田会長：当面は、本協議会をこのまま継続する形で進めたいと考えているが、将来的にはNPO法人化することも視野に入れながら、今後の組織のあり方についても、引き続き検討していければと思っている。

若山委員：当面は、本協議会の枠組みを残すとのことであるが、今回任命された委員は任期が終了することとなるので、新たに公募する形でメンバーを募るという考えでよいか。

多田会長：基本的にはそのように考えている。ただし、現在も取組が続いている地域資源の発掘・活用に関するものや、コンテナハウスなど地域コミュニティの活性化に関することは、現在担当されている方が、引き続き業務を担っていただきたいと思っている。

3 おわりに

多田会長：道関係者の皆様、幌加内町関係者の皆様におかれては、この2年間、本当にお世話になった。心から厚くお礼申し上げます。道のモデル事業は、ここ母子里を含めて3地区で実施されたと承知しているが、他の2地区では、スムーズに話し合いが進められたのではないかと推察するが、ここ母子里では、地域への熱い思いを持たれている委員が多く、かなり白熱した議論が交わされたように感じている。こうした地域の議論に、この2年間、辛抱強くお付き合いいただいた関係者の皆様に、重ねて感謝を申し上げます。ここ母子里で抱えている課題は、現在、日本が抱えている課題の縮図のように思う。少子高齢化や人口減少をはじめ、外貨を獲得するような産業が育たないことなど課題が非常に共通している。こうした課題の解決に

向けて、地域に仕事を作る、地域の資源を売るといった取組のほか、地域にあるものを分かち合い、地域の方々に支え合う仕組みづくりについても活発な議論が交わされた。ここ母子里の魅力についていえば、自然に恵まれ、土地も安く、自給自足の生活も可能で、都会では考えられないような生活が実現できる地域でもある。本協議会の取組は、今後も継続していくので、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

西田主幹：委員の皆様、地域おこし協力隊のお二方、旭川大学の皆様、幌加内町関係者の皆様におかれては、2年間、道のモデル事業としてお世話になり、心より感謝を申し上げる次第。この2年間、道として初めて集落対策というものに取り組んだところであるが、皆様のご協力がなければ、北海道の集落対策の取組は、まさに「画に描いた餅」になっていたと考えており、地域の皆様が中心となって、地域の課題や資源を見つめ直し、地域の方向性をまとめられ、そして、これらを実践につなげていくことで、初めて地域が取り組む集落対策として確立するものであり、こうした取組は私ども道の取組だけでは、決して成し得ないもので、地域の皆様の取組そのものが集落対策であると率直に感じている。本日の会議の中でも、来年度以降、地域の方々に取り組めるものを選択しながら、引き続き取組を進められるとのことであり、私どもとしても、息の長い取組として継続していくことが非常に大切であると考えているので、委員の皆様におかれては、引き続き取組へのご協力をお願いしたい。道のモデル事業としては、本年度をもって終了となるが、今後も引き続きご協力をさせていただきたいと考えているので、どうぞよろしくお願いする。2年間、本当にありがとうございました。

～ 閉 会 ～